



川中だより

令和5年5月31日(水)発行

新発田市立川東中学校

学校だより 第2号

TEL (25)2011 FAX (25)2022

<https://kawahigashi-j.shibata.ed.jp/>

校長 清水 謙一

早いもので令和5年度がスタートし、2ヶ月が過ぎました。

5月10日(水)には、恒例のふるさとウォークを絶好の晴天のもと無事、終えることができました。私も午前中は全校生徒と一緒に田貝の集会所まで歩き、川東中学区にある自然を満喫し、生徒たちの笑顔を見ながら歩くことができました。私自身は一番後方からスタートし、途中で先頭集団に追いつくことができ、全校生徒の歩く様子を見るのがとても嬉しかったです。

また、ふるさとウォークの実施に伴い、多くの保護者の皆様からもボランティアとして支援いただき深く感謝申し上げます。

長い距離を歩く中で、楽しそうに歌を歌いながら歩く生徒や、友達と楽しそうにおしゃべりしながら歩く生徒、休憩所の川のそばで涼む生徒、普段歩きなれない長距離に顔をゆがめながら必死に歩きぬく生徒など、様々な生徒たちの様子に触れることができました。

学校としては、この活動を通しふるさとを改めて知る機会となり、故郷に愛着を持てる生徒になってほしいと願っています。

話は変わって、5月1日(月)の全校朝会の折に校長講話で「深浦高校野球部」の話をしました。青森県大会で甲子園常連校の東奥義塾高校に122対0で敗退した野球部の話です。

試合途中で監督が「棄権するか…続行するか」と選手に問い、選手は続行することを選び、結果として歴史的な敗退をしました。

しかし、その試合を通じて生徒たちが得たものは多く、あきらめた生徒は一人もいませんでした。生徒たちは翌年の1回戦で54対0で負け、その翌年も1回戦で19対4で負けました。

校長講話の中で、私は全校生徒たちに「深浦高校野球部の生徒たちは部活動を通して何を学んだでしょう?」と問いました。そして、全校生徒には答えを求めずに終わりました。

私はこの話を通して、川東中学校の生徒たちに「部活動は何のためにやっているか」を考えてほしかったのです。昨今、スポーツの世界はオリンピックで金メダルをとったり、WBCで優勝したりすると大きくメディアで取り上げられ、「スポーツで勝つこと」が注目されがちです。確かに、「勝つこと」を目標に努力するプロセスはとても重要です。しかし、本来スポーツは、その種目の特性を通じて体を動かすことを楽しんだり、仲間と協力して何かを達成したり、苦しいことを乗り越えて我慢強く挑戦したりすることなどが大切なのではないかと私は考えています。

もうすぐ、中体連などの大会が迫ってきています。しかし、最後まで負けずに終わることができる中学生は各種目全国で1チームずつ、または1選手ずつです。川東中学校の生徒達には、部活動を通して多くのことを得てほしいと私は願っています。